

●人文主義の理念

1500年以前のアルプス以北 一時的な平和の状態

ギリシア・ローマ・キリスト教古典からなる人文主義

D・エラスムス (1469-1536)

人間の本質は理性的・かつ平和的である ←→マキャヴェリ

└─▶ 社会の墮落を古典の中にある道德・倫理で治療する

政治社会の善悪は君主の統治者としての資質が重要 → 「君主教育」

T・モア (1477-1535)

貧富の差による社会状況の悪化 → 経済内部で起こる混乱

人間の道徳的墮落に原因

『ユートピア』

理想の社会を描くことによって、それを貫く倫理原則を説明的に教えること

君主および人民の教育 古典に基づく啓蒙主義へと向かう

●宗教改革

1520~1530年代にかけてヨーロッパ・キリスト教世界の崩壊

M・ルター (1483-1546)

・ルターの「罪」

人間の本質である自己愛 → 人間には克服不可能

・信仰と救済はごく内面に限られた現象、および行為

└─▶ a) 万人司祭主義
b) 聖書主義 → カトリック教会の権威、権力構造を否定

・二統治論の形成

教会は靈的領域を統治 } 世俗権力への無条件の服従
君主は世俗領域を統治 }

J・カルヴァン (1509-1564)

政治権力は神によって樹立

→ ・政権力に対する教会の優越
・世俗権力を行使する君主は神の地上における似姿

神権政治 他の宗教解釈に対して不寛容な思想と体制

ex) M・セルヴェ事件 1553年10月 信仰の相違から処刑